青銅鬼

柳川春葉

青空文庫

何日だったか、一寸忘れたが、或冬の夜のこと、私は小石川区金富町の石橋思案氏の家を訪れて、其処を辞したのは、最早十一時頃だ、非常に真暗な晩なので、全く鼻を撮まれても解らないほどであった、ふいと私は氏の門を出て、四五間行くと、その細い横町の先方から、低く草履の音がして、道の片隅を来るものがある、私は手に巻煙草を持っていたので、漸々二人が近寄って遂に通過ぎる途端、私は思わずその煙草を一服強く吸った拍子に、その火でその人の横顔を一寸見ると驚いた、その蒼褪た顔といったら、到底人間の顔とは思われない、普通病気などで蒼褪るような分ではない、それは恰も緑青を塗ったとでもいおうか、まるで青銅が錆たような顔で、男ではあったが、頭髪が長く延びて、それが懶惰そうに、むしゃくしゃと、顔のあたりに垂れているのであった、私はそれを見ると、突然何かに襲われた様に、慄然として、五六間は大跨に足取も頗る確に歩いたが、何か後方から引付けられるような気がしたので、それから先は、後方をも振向かず、一散走りに夢中で駈出したが、その横町を出ると、すぐ其処が金剛寺坂という坂なので、私はもう一生懸命にその坂を中途まで下りて来ると、その時刻にまだ起きていた例の「涙寿し」の前まで来て、やっと一息ついて、立止ったが、後方を見ると、もう何者も見えないので、やれ安心と思って漸くに帰宅をした、これは或は私の幻覚であったかもしれぬが、その蒼褪た顔の凄さといったら、その当時始終眼先にちらついていて、仕方が無かったが、全く怖い目に会ったのであった。

青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選・特別篇　百物語怪談会」ちくま文庫、筑摩書房
　　2007（平成19）年7月10日第1刷発行
底本の親本：「怪談会」柏舎書楼
　　1909（明治42）年発行
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2008年9月25日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

青銅鬼

柳川春葉

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/